

令和3年度卒業式答辞

環境都市工学科 東垣内 葵衣

窓から見える風景も春を感じさせる陽気となってまいりました。本日は私たち卒業生のために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。お忙しい中、ご臨席くださいました皆様、卒業生を代表して心より御礼申し上げます。

2017年4月、私は期待と不安を抱え、この体育館で入学式を迎えました。知り合いも少なく親元を離れて寮生活が始まる不安から、式中は肩をすくめて縮こまっていたことを今でも覚えています。

勉学では、専門科目が理解できずテスト期間になる度、頭を抱えながら勉強していました。夜まで友人と連絡を取り合いながら勉強したり、先生方には分からない問題を解説していただいたりしました。たくさんの人から助けられたことで、この5年間のテストや課題を乗り越えられました。

私は5年間寮生活を送っていたので、和歌山高専での思い出の半分は寮でのこと、と言っても過言ではありません。同級生とはもちろん、卒業された先輩方や後輩たちと夜な夜な話し、お菓子を持ち寄ってパーティーして朝の点呼に遅れそうになったこともありました。今までは卒業される先輩方を見送っていましたが、いざ自分が退寮するとなったときは何とも実感が湧かないものです。「もう4月から居ないと思うと寂しい」と別れを惜しんでくれる後輩が出来たことは寮に入って良かったと思う理由の一つです。

私は寮に入ることで親に少しでも自立した姿を見せられるかと思っていましたが、思い返せばいつも助けてもらっていました。成績が伸びないこと、友人とケンカしてしまったこと、悩んでいるときに届いた親からの連絡で何度も救われてきました。これからも心配や迷惑をかけるかと思いますが、どうか暖かく見守ってください。

また、共に成長しお互いに支えあった友人たちと4月から別々の道に歩むことに寂しさを感じずにはいられません。体育祭や高専祭などの大きな行事はもちろん、日々の雑談、お互いの悩みを相談したこと、ふざけて撮りあった写真、ささいなことでも全て大切な思い出です。

けれども、2年前から国内でも流行が始まった新型コロナウイルス感染症により、学内行事も日常生活でも自粛を求められることが増え、窮屈な生活に変わっていききました。コロナウイルスが無ければ毎日感染症対策に追われることもなかった、部活動を制限されることもなかった、友人たちともっと色々な場所へ気軽に遊びに行くことが出来たのではないかと、何度も悔しい思いをしてきました。しかし、気軽に会うことすらできなかった時期があったことから、私は友人や久しぶりに会う親戚との時間を以前よりも大切にしよう意識し始めました。どうしてもマイナスなイメージを持ちがちですが、コロナウイルスにより大きく変化した日常も思い出や学びの一つになるのではないのでしょうか。一つの考えに囚われず、様々な視点から物事を捉えられるような大人になりたいと思います。

この5年間を振り返ると長いようで短いものでした。私が今日、卒業式を迎えることが出来たのも多くの人の支えがあったからこそです。培った経験を生かし、これからも立派な大人になれるよう精一杯励みますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、今までお世話になりました、校長先生をはじめとする諸先生方、友人、家族、在校生の皆さんに改めて感謝するとともに、和歌山高専の益々の繁栄を願ひまして、答辞とさせていただきます。

令和3年度卒業生代表 東垣内 葵衣